

行動1：健康と幸福 ストレスとは何か

日時：4月11日（木） 3時限

担当者：菅 理江(教養教育)

内容：

ヒトが何を幸福と感じるか何を苦と感じるかは社会・文化と密接に結びついている。また環境からの様々な影響は我々に精神的・身体的症状を引き起こす負荷となりうる。ストレスを中心とした、環境と個人の相互作用によってもたらされる問題を心理的支援も含めて考える。

1. 欲求とフラストレーション・葛藤との関連を概説できる。
2. 適応（防衛）機制を概説できる。
3. 主なストレス学説を概説できる。
4. 人生、日常生活や仕事におけるストレッサーとその健康への影響を例示できる
5. ストレス－コーピング過程に関連する心理社会的要因を説明できる。
6. ストレス対処法を概説できる。

キーワード：

ユニット：

幸福感と満足度、感情状態予測、学習性無気力、ストレス耐性

★コアカリ：

ストレス、ストレス－コーピング過程、ストレス対処法、ストレス反応、ストレッサー、フラストレーション、葛藤

参考書：

- ◆ 「ヒルガードの心理学第16版」ノーレン・ホークセマ，S他著，内田一成監訳，金剛出版，2015
- ◆ 「医療現場のコミュニケーション－医療心理学的アプローチ」上野徳美，久田満著，あいり出版，2008

予習：

教科書第12章健康に目を通しておく。（15分）

復習：

授業の最初に紹介したストレス評価テストをやってみて、各質問が何を予測して測っているのか考える。（20分）

行動2：行動神経科学

日時：4月18日（木） 3時限

担当者：菅 理江(教養教育)

内容：

細胞生物学・人体の構造と機能などで学んだ人体の生理と行動のかかわりについて学ぶ。

1. 生理的動機，内発的動機，及び社会的動機を概説できる。
2. 行動の脳内基礎過程を説明できる。

キーワード：

ユニット：

行動測定，行動薬理学，神経伝達物質，動機，味覚嫌悪条件付け

予習：

1年生で学んだ、レスポナント（古典的）条件づけ、オペラント（道具的）条件づけがどのようなものであったか復習しておく。（教科書「心理学概論第2版」第4章学習第2節古典的条件づけ，第6章動機づけ）（15分）

復習：

自分の日常の行動を「動因」「誘因」「動機づけ」という言葉を使って説明してみる。（10分）

行動3：文化と社会・ジェンダー

日時：4月25日（木） 3時限

担当者：種田 佳紀(教養教育)

内容：

1. 人間社会は様々な階層レベルの集団として形成され、それぞれの集団は内包する個人あるいはそれ以外の個人・集団に対して影響を与えていることを理解する。★S0-06-01-03
2. とくにジェンダーについて、なぜそれが社会や文化にとって複雑な論点となりえるのか理解する。
★S0-04-02-01 ★PR-02-02-01
3. 社会のなかで実際にあるジェンダーの問題について、その論点を指摘できるようになる。★
S0-04-02-01 ★PR-02-02-02

キーワード：

ユニット：

社会的アイデンティティ、役割、偏見、ステレオタイプ、性的マイノリティ

★コアカリ：

ジェンダーの形成

参考書：

- ◆ 「LGBT を読みとく ―クィア・スタディーズ入門」 森山至貴，ちくま新書，2017

予習：

社会や文化によって異なっていること（ものの見方や行動，習慣など）を3つ以上考えておく。また、指示された事前学習課題を実施する。（15分）

復習：

指示された復習課題を実施し、ジェンダーについての考えを自分なりに再度整理しておく。（20分）

行動4：医師－患者関係

日時：5月16日（木） 3時限

担当者：米岡 裕美(教養教育)

内容：

怪我や病気になるということは、単なる物理現象ではなく、様々な社会的な意味を持っている。同様に、病人は、「病人」という社会的役割を演じているということもできる。一方で、医師と患者の関係は、特殊な性質を持っている。このような、社会的に規定されている病と病人、医師－患者関係について学ぶ。

★PR-02-02-01 ★PR-02-02-02

1. 病人役割を説明できる。
2. 医師と患者関係について、どのような説明がなされてきたのかを列挙できる。
3. 具体的な事例について、医師と患者等がどのモデルにあてはまるのか説明できる。

キーワード：

ユニット：

ラベリング、役割理論、病人役割、医師役割、関係の非対称性

参考書：

- ◆ 「『医師アタマ』との付き合い方－患者と医者はわかりあえるか」 尾藤誠司，中公新書ラクレ，2010

予習：

自分が素人の立場で相手の専門職と話がかみ合わない、思いが通じないなどのコミュニケーションに不満や不安を感じた経験を思い出しておく。（できれば医療場面での経験を思い出す。それがなければ他の場面でもよい。）（10分）

復習：

予習で思い浮かべた場面について、授業で習ったことを適応し分析する。（15分）

行動5：自分を俯瞰する

日時：5月23日（木） 3時限

担当者：米岡 裕美(教養教育)

内容：

同じ言葉を聞いたり，同じ場において同じ体験をしたとしても，人によって解釈や、解釈以前の事物の認知自体が異なることがある。それを含めて，自分の物の見え方や考え方が，どのようなものの影響を受けているのかを考える。★PR-01-02-01 ★PR-02-01-02 ★PR-02-02-01 ★PR-02-02-02

1. 認知の癖の種類と特徴について説明できる。
2. 自分の認知の癖を判別できる。
3. 自他の言動の意味を，認知の癖や社会関係等の文脈等から類推できる。 ★GE-04-02-01

キーワード：

ユニット：

メタ認知，認知の癖

予習：

小さなものでもよいのでカルチャーショックを受けた体験を思い出す。(5分)

復習：

予習で思い浮かべた場面について，授業で習ったことを適応し分析する。(10分)

行動6：進化と人間行動

日時：5月28日（火） 3時限

担当者：菅 理江(教養教育)

内容：

行動はどのように選択され進化してきたのか，行動の起源について理解し，ヒトがどのように行動を環境に適応させてきたのかを知る。

キーワード：

ユニット：

進化，自然選択，選択圧，適応，比較行動学，ティンバーゲンの4つの質問，包括適応度

参考書：

◆ 「進化と人間行動 第2版」長谷川寿一，長谷川真理子，大槻 久 東京大学出版会，2022

予習：

事前課題がWebClassに掲載されるので事前に実施しておくこと。(参考書「進化と人間行動」の中の「進化の概念」を読んで質問に答える)(20分)

復習：

包括適応度とはどのような概念であるか，自分が理解できているか確認する。自分と従兄弟の子どもの血縁度を計算してみる。(15分)

行動7：話し合いを促進する

日時：5月29日（水） 3時限

担当者：柴崎 智美(医学教育学) 米岡 裕美(教養教育)

内容：

話し合いを促進する技法であるファシリテーションは，話し合いを促進し，それを通じて人間関係を作り，チーム活動の質を高める。演習を交えながらファシリテーションの基礎を学ぶ。★PR-01-02-02

1. 話し合いを促進するための方法を説明できる。
2. 1を具体的な状況における具体的な行動として表現することができる。

キーワード：

ユニット：

ファシリテーション、話し合いの目的／ルール／プロセス、対話と議論、OARR

予習：

「対話」と「議論」という言葉の意味を調べる。(10分)

復習：

対話と議論がそれぞれ医療現場のどのような状況で必要かを説明する。(10分)

行動8：話しやすい場をつくる

日時：5月29日（水） 2時限

担当者：柴崎 智美(医学教育学) 米岡 裕美(教養教育)

内容：

3人以上の話し合いは2人での話し合いと異なる側面がある。まず話しやすい場にするためのポイントを学び、簡単な演習を行う。

1. 話しやすい場にするための方法を列挙できる。
2. 1の方法を、具体的な状況における具体的な行動として表現できる。

キーワード：

ユニット：

アイスブレイク、信頼関係、視覚化、話し合いの環境、場の安全性

予習：

自分が体験した話し合いの場で、話しやすい場、話しにくい場の特徴をそれぞれ3つ以上挙げておく。(10分)

復習：

予習であげた特徴に対して、授業で学んだどのようなスキルが有効かを再確認する。(5分)

行動9：行動科学に基づいて医療倫理を考える

日時：11月26日（火） 1時限

担当者：菅 理江(教養教育)

内容：

これまで学んできた行動科学の知識と医療倫理のつながりを理解する。

1. 意思決定に関わる認知機能について説明できる ★CM-02-03-01 ★CM-3-02-03
2. 意思決定に関わる社会的文脈の役割について説明できる
3. 自動的処理と制御的処理の違いが説明できる

キーワード：

ユニット：

プライミング、注意、ヒューリスティックス、アルゴリズム、無意識

予習：

問題解決や選択的注意に関する授業資料を読み直しておく(10分)

復習：

意思決定に関わる行動科学的要因を書きだし、各事項同士の関連性を確認しておく(10分)

行動10：意思決定とインフォームドコンセント

日時：11月26日（火） 2時限

担当者：種田 佳紀(教養教育)

内容：

1. ヒトの意思決定は必ずしも最も合理的な成果をもたらす選択と合致しないことを理解する。
2. ヒトが意思決定をする際にどのような情報を必要とし、どのような選択の特徴を持つのかを理解する。
3. インフォームドコンセントについての基本的な理解を再確認する。
4. 意思決定の特性という観点から、患者さんの意思の尊重が実質的に何を意味するのか、検討を深める。
5. 健康に関する行動経済学の知識を活用できる。★GE-01-05-03 ★CM-3-02-03

キーワード：

ユニット：

意思決定、合理性、リスク評価、ヒューリスティクス、プロスペクト理論

★コアカリ：

インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント

参考書：

◆ 「医療現場の行動経済学」大竹文雄，平井啓，東洋経済新報社，2018

予習：

ヒューリスティクス，アルゴリズムとはどのような考え方であったか，復習しておく。また指示された事前学習課題を実施する。（10分）

復習：

授業で示された概念を理解し、事例に応用できるようにしておく。（10分）

行動 11：医療安全 I：医療安全管理体制の概説

日時：12月11日（水） 3時限

担当者：川井 信孝(国セ 造血器腫瘍科)

内容：

医療者は医療の質の向上および安全の確保に努めなければならない。そのために組織としてどのような安全管理体制が必要か、事故防止のために具体的に何を行えばよいか、国はどのような施策を講じているかについて学習する。

1. 組織における医療安全管理の要点が説明できる ★CS-05-03-01 ★CS-05-06-01
2. 組織における安全文化の醸成について説明できる
3. JCIにおける国際患者安全目標が説明できる
4. 医療事故調査制度について説明できる
5. SBARを用いてコミュニケーションができる

キーワード：

ユニット：

安全管理指針，安全文化，コミュニケーションエラー，PDCA サイクル，SBAR

★コアカリ：

ヒューマンエラー，インシデントレポート，医療事故調査制度，チーム医療，フェイルセーフ，フルプルーフ

国試出題基準：

必修の基本的事項 4 医療の質と安全の確保 A 医療の質の確保、B 医療事故の発生と再発の防止、D 医療裁判

予習：

ヒューマンエラーの分類、医療事故調査制度について予習しておく。（15分）

復習：

SBARを用いたコミュニケーションの例文を考える。（5分）

行動 12 : 認知行動療法

日時 : 1 月 8 日 (水) 2 時限

担当者 : 小林 清香 (総セ 神経精神科)

内容 :

心理学をもとにした行動変容技法のひとつ、認知行動療法について解説する。この療法をとおして、心理的療法の基礎となるアセスメントやモニタリングの技法について学び、問題を解決する手段としての心理学について考える。★GE-01-05-02

キーワード :

ユニット :

アセスメント, セルフモニタリング, 不適切な認知, 行動分析, 動機づけ

予習 :

配付資料に目を通しておく。(5 分)

復習 :

講義で取り組んだ内容が生じている場面を実生活でも見つけられるように、学びと生活を照らし合わせて考えること。(10 分)

行動 13 : 人間性心理学とカウンセリング

日時 : 1 月 8 日 (水) 3 時限

担当者 : 小林 清香 (総セ 神経精神科)

内容 :

言語的, 非言語的コミュニケーションを通じて, 患者さんを主体にその人格を尊重して信頼関係を築くという人間性心理学の思想は臨床心理学に大きな影響を与えた。カウンセリングの基本について学び, コミュニケーションについて対人援助の側面から考える。★GE-01-05-01 ★GE-01-05-02

キーワード :

ユニット :

共感的理解, 自己理解, 対人援助, クライアント中心療法 (PCA), 欲求階層説

予習 :

配付資料に目を通しておく。(5 分)

復習 :

講義で取り組んだ内容が生じている場面を実生活でも見つけられるように、学びと生活を照らし合わせて考えること。(10 分)

行動 14 : 医療面接

日時 : 1 月 8 日 (水) 4 時限

担当者 : 小林 清香 (総セ 神経精神科)

内容 :

医師と患者のコミュニケーションの内、特に日々の診療場面におけるコミュニケーションを取り上げて、患者、家族、医療者の心理について考える。医療コミュニケーションスキルを慢性期治療を例に解説する。★CS-01-01-01

キーワード :

ユニット :

医療面接, コミュニケーション, スキル, 認知

予習 :

配付資料に目を通しておく。(5 分)

復習：

講義で取り組んだ内容が生じている場面を実生活でも見つけられるように、学びと生活を照らし合わせて考えること。(10 分)

行動 15：人間を理解するために

日時：1 月 9 日（木） 3 時限

担当者：菅 理江(教養教育)

内容：

医療と行動・心理に関する研究がもたらしたものは決して明るいものだけではない。人の行動・心理に関する理論と歴史を概観し、行動を取り扱う上での倫理的問題について改めて考える。また、今年の授業の流れを概観し、各授業で取り上げた問題がどのように医療現場で関わり合うのかを考える。

キーワード：

ユニット：

生命倫理，医療安全，ノンテクニカルスキル，ストレス，対人認知

予習：

ユニットを通して、わからなかった点、疑問に思った点などをリストアップしておく。(15 分)

復習：

出席票に掲載している医療事故に関する動画をみて、これまで習ってきた項目が実際の場面でどのように現れているのかを確認する。自分の理解が足りない項目があれば、教科書で確認する。(25 分)